

自由論題 2「中国の地方と少数民族」・報告 3

報告テーマ

中国経済の省市区間相互作用と経済一体化に関する研究  
A Study for Economic Integration of among Chinese Provinces

氏名(所属)

南川高範(環日本海経済研究所)

要旨(800字程度)

本研究は、中国における省市区レベルの経済一体化に関する研究である。中国では都市と農村の一体化、あるいは香港と大陸中国の一体化のように、一体化という言葉がよく用いられるものの、その言葉自体に明確な定義がされておらず、何をもって経済の一体化が進んでいるかについての合意もない。

ベラ・バラッサは、国家間の経済一体化について、自由貿易協定から政策の統一・超国家機関(スープラ・ナショナリズム)の設置までの経済統合の段階を示している。ここで想定されている経済統合はどの段階についても、必ずしも経済規模やインフラ整備の分布が一様化されることではない。一体化が用いられる文脈としても中国経済全体に起こる外生的なショックに対して都市や農村が同じように反応する、あるいは、経済成長などフローの指標が同じ方向で推移するような状況を指していると考えられ、必ずしもストックの数値における均一性を指すものではない。

ここでは、経済指標から空間ウェイト行列を推定し、省市区間の経済的相互作用の現状について局所空間的自己相関係数の値から考察する。こうした検証の標準的方法であるローカルモラン係数を計算する際には、空間ウェイト行列を特定する必要があるが、経済指標を対象にする場合には、物理的な隣接度合や距離的近接性のみを用いてウェイトを特定することは適当ではない。ここでは Sparse モデリングの手法の一つである Adaptive LASSO 回帰を用いて空間ウェイト行列自体を推定し、経済的な取引の活発さを基にウェイトを特定することを考える。

中国に関するいくつかのフローの経済指標に主成分分析を適用し、作成された先進性を代表するような指標について、算出されたローカルモラン係数の分布を地図上に重ねると、沿海地域から重慶、四川に向かって経済の一体化が進んでいる一方、山西、安徽、広西は一体化の流れに乗り遅れているという結果が示された。